

議 事 録

日 時	令和7年7月15日(火) 14:00~15:30	場 所	福島市役所 複合棟312会議室
会議等名	第1回 福島市5歳児健康診査導入のための検討委員会		
議 題	5歳児健診を開始するにあたって、福島市の発達支援の取り組み状況の共有と開始に向けた課題の共有を図る。		
出 席 者	名簿の通り。欠席者は以下2名。取材:福島民友社		
欠 席 者 (敬称略)	福島県立医科大学小児科学講座:鈴木雄一 福島県公認心理師会代表:佐藤佑貴		
主な内容	【委員長挨拶】 5歳児健診は関係機関の協力が必要。福島県立医科大学や、福島大学もあり、学識経験者がいる点で地理的には始めやすい。検討委員会を通して連携が強められるといい。 【説明・報告】 (1)5歳児健康診査の概要 概要について説明し、有効的にフォローしていくためには、3歳児健診の事後フォローとのつながりも考える必要があるとの指摘があった。 (2)令和6年度視察報告 先行自治体の健診内容について説明。視察先の診察医の数や、事後フォローでつながる事業の詳細について質問があった。 【協議】 (1)福島市の5歳児健康診査 福島市で導入した場合の従事者、内容、対象の月齢、1回の該当数などに関し検討事項が明確になった。 (2)発達支援の現状 発達支援の現状について事務局より説明。質問には担当課が回答。現状でも数多く事業はあるが、それぞれの事業同士が連携できていないことが指摘。解消するために、なにかしら共通のツールを使用する必要があるのではとの意見あり、検討事項となった。 (3)意見交換 出席者より、本日の検討委員会及び5歳児健診実施に関してのご意見をいただいた。 【今後について】 それぞれの機関で作成している支援状況共有の様式はあるが、外部機関との連携を目的として作成されたものではない。切れ目ない支援のために、なにを活用するか、どのタイミングで共有するのか等、検討していく必要がある。		

第1回 5歳児健康診査導入のための検討委員会 議事録（質疑応答）

日時：令和7年7月15日（火）14時00分～15時30分

場所：福島市役所 複合棟 312会議室

○：委員意見・質問 ●：事務局の説明 ※いずれも要約

<事務局より説明後、委員による意見交換・質問>

【説明（1）5歳児健診概要（国の動き）】

○対象年齢は、小学校入学前に支援の必要性を把握する健診と思っていたため年長児と考えていたが、年中児が対象なのか。

●5歳0か月の受診を想定しているため年中児が対象となる。

○3歳児健診は、3歳6か月児を対象としているため、5歳児健診までの間が短い。3歳0か月児を対象にすれば、5歳児健診まで間隔が空くことでフォローアップ期間が長くなるため、その方が良いのではないか。

●3歳6か月児を対象としているのは正確な検査を実施するための発達段階を考慮しているからである。また、コロナ渦で健診を中止していた影響があり、現在の対象月齢は3歳7か月児である。3歳0か月児を対象とするには様々な課題があるが、3歳児健診の対象月齢については検討課題としていく。

【説明（2）視察報告】

○視察先の自治体を選んだ理由は何か。

●5歳児健診を集団で実施している自治体で、集団遊びを実施している A 市と集団遊び未実施の同規模自治体である B 市を選び、視察した。

○B 市で、発達支援が必要な児童のフォローアップ先となっている県のコンサルティング事業のようなものは、福島県の事業にはあるか。

●現在把握している中には、該当する事業はない。

○1回の健診で40人を診察することは大変だと感じる。1回の受診人数について、検討してほしい。

●年間の健診回数を考慮し、1回40人としたが、今後の検討事項としたい。

【協議（１）福島市５歳児健診について】

○栄養士による栄養相談は考えているか。

●現段階では、健診会場での栄養相談は検討していない。参考としている５歳児ポータルサイトでは、栄養士の従事率は６割である。今後の検討事項としたい。

【協議（２）福島市発達支援の現状について】

○５歳児健診を実施しているある町で、支援が必要と判断された児の保護者が不安を感じている事例があった。健診の事後のフォローがないと就学児健診まで不安なまま過ごすようになるため、児が所属する園と連携し、支援していく必要があると感じた。

○５歳児健診を実施することで、支援学校、支援級に通う児が増えるのではないか。

○５歳児健診の事後フォローとして、保育園・幼稚園、小学校と連携が重要であるが、現状は？

●幼稚園・保育園、小学校と連携・共有していく必要があると感じている。どのように連携・支援していくかは、検討中である。

○【幼保担当課】支援が必要な児の関係者会議を定期的に行っている。そこでは、健診で支援が必要と判断された児、保育士が気になる発達支援が必要な児について話し合っているが、医師の診断がついていない児が対象になることが多い。

保育の現場では、医師から療育の必要性や支援方法の説明があれば、保育士が理解し、対応が円滑にできることもあるのではないかと感じる。支援者（保育士等）への支援が必要と感じている。現在実施している支援者支援としては、こども発達支援センターの事業で保育施設等応援隊「てくてく」（以下、「てくてく」という）がある。

●昨年度から、こども発達支援センターで実施している「てくてく」では、児の所属先に応じてどのように支援していくかを助言している。

３歳児健診事後フォローでは、こども発達支援センターによる発達相談会と、他機関の事業につなぐ等の支援をしている。今後、事業の周知を検討していく。

○【教育担当課】様々な支援事業があるが、児の支援状況を学校では把握できていない。ふくしまサポートシート（以下、サポートシートという）を活用して、母子健康手帳の拡大版のように、相談内容や支援内容を記入してほしい。学校現場では、支援の現状や児の対応方法を知りたいため、横のつながりを強化してほしい。

●支援状況が小学校につながりにくい現状があることは把握している。発達相談会では、サポートシートを活用しているため、学校生活へ適応できているかを見守っていくために小学校への繋がりができればと思っている。連携方法など一緒に考えていきたい。

○【幼保担当課】小学校には指導要録という形で連携している。しかし、ナーバスで、難しい部分は伝えられない。サポートシートは保護者と共有するものであり、保育園で周知もしている。

- サポートシートは、保護者が児の特性等を理解していると作成しやすい。保護者からどの段階で小学校に提出するべきかわからないと声があった。サポートシートの活用は、保護者の思いを知るための参考になっている。多機関の連携ができればよいと感じる。
- 幼保から小学校の連携がポイントだと思う。事業はたくさんあり、機能していけばいい。事業ごとにケースレポート（共通認識ができるカルテのようなもの）などがあるといいのではないか。
- 各機関と電話連絡等で連携はしているが、共通のツールがないのが現状である。サポートシートを使用している場合はそれが共通のツールとなる。障がいの有無に関係なく使えるように、今年度全面改定したところである。

【意見交換】

- 5歳児健診と就学時健康診断の連携が重要であり、情報共有や支援について一本化してほしい。様々な機関から情報が入ると学校側が混乱するのではないかと懸念している。
- 教育支援委員会は就学時健康診断の結果により開催されているが、5歳児健診の結果は就学時健康診断に活かすこともできるため、検討していく必要がある。
- 多機関でサポートシートのようなものを使うと混乱を生む。チェックシートのような簡単なものがあるといい。
- 5歳児健診の従事者に言語聴覚士がいると早い段階で治療に繋がるのではないかと思う。入学後、ことばの教室に通っている児もいるが、言語聴覚士が健診に従事した方が早期支援に繋がると考える。
- 5歳児健診の実施により、障がい福祉サービスの利用を検討する保護者の数が増えると予想しているが、支援の委託先は耐えられるか懸念している。既存の相談支援事業所との連携も検討事項である。
- 横のつながりが大切であること、健診結果の共有の大切さを感じた。
- 5歳児健診の必要性は強く感じる。サポートシートは障がい児が持つものと感じる保護者もいるため、4月に保護者向けの講座を実施し、サポートシートの説明をした。障がいの有無にかかわらず、どのような関わりが児のためになるか知ることが大切。
- 5歳児健診の実施に向けて、多くの課題・ご意見をいただいたので、関係各課で協議していきたい。サポートシートの裏面を見ていただくと、関係各課が共同して実施していることがわかると思う。保護者の理解が重要であるものの、各機関で活用していただきたいと思っている。

次回検討委員会までに、本日課題・検討事項として挙げられたことを、情報整理していきたい。